

TTC山行実施記録表

2011年7月30日 報告者:佐々木

山行名	TTC15周年記念後立山連峰リレー登山『Dコース:唐松岳～五竜岳』		
実施月日	平成23年7月23日(土)～26日(火) 交通手段:マイカー		
天候/参加人員	天候:晴/晴後曇/曇/曇・小雨 レベル:★★ 参加人員(申込:6名、参加:5名)		
パーティスタッフ	CL: SL: 会計/計画: 救護: ドライバー-正:副: 氏名削除		
参加メンバー	氏名削除		
費用 38,000円	支出: 高速代:往2,050円+復2,900円=4,950円、マイカー使用料:100×600=6,000円、 ドライバー謝礼:5,000×2=10,000円、ガソリン代:150×600/8=11,250円、 ヒュッテかもしか:(8,400+400)×5=44,000円、唐松小屋:9,000円×5=45,000円		
TTC積立金 1,194円	五竜小屋:9,000円×5=45,000円、ビール代:ヒュッテ550円、唐松小屋:600円、五竜小屋:1,200円 飲料水:300×5=1,500円、コーヒー、コア:756円、ガスボンベ:500円、八方アルペン券:1,400×5=7,000円 五竜レキヤビン:860×5=4,300円、巡回バス:500×5=2,500円、入浴代:500×5=2,500円、 ロッカー代:200円、通信費:1,000円、支出合計:188,806円、 収入:38,000円×5=190,000円-188,806円=1,194円(TTC)		
実行コースタイム	<p>▲7/23(土)晴</p> <p>荻野新宿 ==== 相模湖IC ==== 談合坂SA ==== 双葉SA ==== 梓川SA ==== 豊科IC == 7:10 8:15 8:30 8:40 9:30 9:40 10:40 11:40 11:45</p> <p>姫川源流自然園 散策===== ヒュッテかもしか(泊) 13:05 ~ 14:20 14:45</p> <p>▲7/24(日)晴後曇霧夕雨</p> <p>0.05 0.20 0.35 0.35 0.05 ヒュッテかもしか----- ゴンドラ乗場 ===== 八方池山荘 ----- ベンチ ----- 八方池分岐 ----- 7:15 7:20 7:25 7:45 8:00 8:35 8:40 9:15</p> <p>0.05 0.10 0.40 0.40 0.40 0.15 八方池 ----- 分岐 ----- 小ピーク ----- 扇の雪溪上部 ----- 丸山 ----- 休憩 ----- 9:20 9:25 9:30 9:40 9:45 10:25(昼食)10:45 11:25 11:35 12:15 12:25</p> <p>0.20 0.15 唐松山荘 ----- 唐松岳山頂 ----- 唐松山荘(泊) 12:40 13:30 13:50(A・C再会) 15:35 15:50</p> <p>▲7/25(月)晴後曇一時雷雨</p> <p>0.50 1.05 1.00 0.55 0.30 唐松山荘 ----- 休憩 ----- 最低鞍部 ----- 五竜山荘 ----- 休憩 ----- 五竜岳山頂 6:45 7:35 7:45 8:50 9:00 10:00 10:30 11:25 11:30 12:00 12:10</p> <p>1.20 ----- 五竜山荘(泊) 13:30</p> <p>▲7/26(火)雨後晴一時小雨</p> <p>1.15 1.20 0.45 0.25 0.35 0.25 五竜山荘 ----- 休憩 ----- 大遠見山 ----- 中遠見山 ----- 小遠見山 ----- ベンチ ----- 5:40 6:55 7:00 8:20 8:25 9:10 9:20 9:45 9:55 10:30(コーヒー)10:50</p> <p>0.25 地蔵の頭 ----- アルプス平 ===== とみみ駅 ===== 八方ゴンドラ駅 ===== 倉下の湯 ===== 11:15(散策) 11:40 11:50 11:58 12:12 13:05(昼食)13:35 13:50 15:00</p> <p>道の駅(安曇野松川) == 豊科IC == 諏訪湖SA == 双葉SA == 相模湖IC == 本厚木 16:00 16:15 16:35 17:00 17:30 18:15 18:55 19:45 21:00頃</p>		
歩行/行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
ガイドブック	3:50/5:50/4:10		
計画時	4:40/5:30/5:05		6:35/7:00/5:25
実行時	4:25/5:40/5:10		7:50/6:45/6:00
コースの概要 特記事項 反省事項・等	<p>はじめに、 4月の総会時、各コースに何人位参加するか、仮に手を挙げていただいた時にDコースは、9名の希望者がいたので、計画のYさんには公共機関で計画表を作成していただいた。その後、二転三転して最終的には5名になり、計画をマイカーに切り替えた。計画担当のYさんには、計画表の改定や現地との連絡でご苦労をお掛けしたことをお詫びいたします。</p> <p>△7月23日(土) 朝7時過ぎ、荻野新宿の華屋与兵衛の駐車場までYMさんのご主人が途中OFさんをピックアップして来て頂き、実質的にはここ荻野新宿が始発になり、途中IYさんを乗せ出発。夏休み最初の土曜日であり、道路の混み具合が気になったが、高速道路は意外と空いていた。急ぐ旅でもないの、各SAに寄ってのんびり、梓川SAでOFさんが作ってきた栗ご飯と、どんぶりいっぱい味噌汁で昼食とした。 高速道路も順調に走り、今日の目的地「姫川源流自然園」へと向ったが、どこから入るかよく</p>		

分からず、近くの民宿のおかみさんに尋ねると気の毒そうな顔をして「今は何にも花が無いのでね～、でもその広場に車を置いていいから」と言われ、そこから姫川に沿って田んぼの中を上流に向かって歩き出した。自然園といってもここから自然園という境があるわけではなく、姫川の源流を地域の人たちで守っているらしい。

姫川はやがて森の中へ入り、木々の下から水がコンコンと湧き出していた、ここが源流らしい、看板には源流がこんなに分かり易いのはめずらしいと書かれていた。この自然園には色々なハイキングコースがあり、どの道もチップがひかれていて足にやさしい。道の端に自然を守るための募金箱があり、気持ちだけの寄付をした。

今の季節は花はないが、5月には一面黄色く福寿草が咲き乱れるらしい、民宿のおかみさんが気の毒そうな顔をしたのが納得できた。道の真ん中を大きな青大将が悠然としていて「踏んじゃうぞ」と言ったらようやく草むらへ入っていった。花は無いけど青大将をみたので、「ま・いいか」と変な納得をして引き上げることにした。

ヒュッテかもしかには午後3時前に着き、おかみさんが迎えてくれたがまだ時間が早く、帰りに入る温泉の下見に出かけた。おかみさんにどの温泉が良いか説明と地図を頂いて、その中の「倉下の湯」を見に行っただけ。源泉掛け流しで500円「うん、ここにしよう」と即決、民宿から車で5分程度と、駐車場がばかに広いので感じが良い。山から帰ってくるまでこの民宿に車をあずける事が出来、温泉道具や着替えが置けるので助かる。

△7月24日(日)

ゴンドラとリフトを乗り継いで八方池山荘には8時前に到着、山荘の玄関の中にあるポストへ山行届けを提出し、軽いストレッチをして、いよいよ山行の始まりである。薄日が射しているが山は霧の中で見えない、「カンカン照りより涼しくていいや」と負け惜しみを言いつつ歩き出す。八方池までは登山者と観光客で賑やかである。途中から八方池へ下る道をやり過ごし、上の分岐にザックを置いて八方池を見学、人はいっぱい居るがガスで見通しが無い、本来ならここから白馬三山と不帰嶮が池に映るはずだが残念、すぐに引き返す、ここからは登山者のみで静かな感じがする。ゆっくりゆっくり花を探しながら、「シラネアオイがある」「オヤマノリンドウだ」などと言いながら気がつくともうお腹がぺこぺこ、扇の雪溪上部で第一回目の昼食、民宿で頂いたおにぎりを一つ食べ、もう一つは第二回目の昼食のためにとっておこう。

相変わらず霧の中を歩き、もう飽きが来た頃、下山してくる登山者に「小屋まではどのくらいですかね」と聞くと「もうすぐ曲がった所ですよ」と教えてもらうが、誰も信じない、山でのもうすぐは結構あるからね、などとせっかく教えてくれたのに信じようしないのは歳のせい？。ふと、顔を上げると目の前に小屋があった、何だ本当だったと、やっと信じたようだ、先ほどの登山者が聞いたらきっと「インディアン嘘つかない」と言うだろう。

唐松山荘で宿泊の手続きを終え、第二回目の昼食とする。唐松岳山頂での出迎えは午後2時～2時45分頃Dパーティーと違って若いから早く着くかも知れないと云う事で、午後1時30分出発、1時50分に山頂に到着した山頂には中学生の団体が居てかなり騒がしい、A・Cパーティーの姿はまだない。不帰嶮側を覗くがガスで全く見えない。中学生が下山すると山頂は物音一つしない静寂とガスに包まれた。

首を長くしてガスの中を眺めていると、かすかに人影が見え隠れする、じーっと見つめていると若い男女が登って来た。「お疲れ様」と言うと「ありがと、あ～疲れた」とザックを投げ出し、ヘルメットを外した、そうかヘルメットが必要かも、内のグループどうしたかなと思いつつ「4人と6人のグループを見かけませんでしたか」と聞いてみた。すると「確か2峰で追い抜いたグループかもしれない」と言うので、ああもうすぐだと安心して待つことにした。

しかし、3時近くになり身体も冷えてきたので引き上げるか、と下り始めるとガスがスーッと消え少し見通しが良くなった、急いで山頂に引き返す。

姿は見えないが霧の彼方から声が聞こえてきた、しばらくして霧の中からAグループの姿が見え隠れして近づいて来た。「おーい」と思わず声を出すと「おーい」と手を挙げて答えた。この時の安堵した気持ちは何とも心地よい。頂上で握手したり、抱き合ったりして再会を喜んでいて、Cグループの声がしてきた、やはり姿より声の方が速く届く、霧の中では声や音が伝わり易いというのがこのことかと実感したのである。

△7月25日(月)

Aグループを見送って1時間後、我々もCグループとお別れして出発した。今日は晴れて気持ちが良い。直ぐに岩場の鎖場へ到着、ストックをしまつて慎重に通過、最低鞍部までぐんぐん下る、「こんなに下らなくてもいいのに」と下らない話をして一人で納得しているCL。10時には五竜山荘に到着、手続きの後、必要な物を持って出発、山頂へ向う、お腹を空かせないよう時々お菓子や乾パンをほうばりながら山頂に到着。終始我々の後から着いて来た男性二人ずれのうち一人が山頂前のピークに留まって来ようとしなくて、従って、山頂には我々5人とその男性一名のみ、まことに静かな山頂である。

下山の途中で、以前ここで亡くなったKさんに対して黙禱を捧げた。場所をはっきりしないが、多分道の山側に小さなケルンが積んであった辺りかなと想像する。

小屋へ帰ると、出発前に注文しておいた牛丼とエビピラフの匂いがして急にお腹が空いてきた。唐松山荘ではお弁当を注文したのだが、それを急遽断ったのは、IYさんのアイデアで大正解、食堂でできたての食事は誠に美味しい、例の二人ずれは後ろで冷たいお弁当を食べながら「失敗した、失敗した」と繰り返していた。

食事の後は外のテーブルでコーヒータイム、入れたてのコーヒーをのんびり頂いていると雷鳴が聞こえてきた。早く降りてきて良かったと安堵する。

△7月26日(火)

朝4時起床、天気の様子を見に下へ降りると玄関はごった返していた、みんな今から山頂を目指すらしい、外は小雨が降っている、山腹にはヘッドランプの灯りが見え、もう登っている登山者もいるらしい、しかし多くの登山者は玄関を出たり入ったり、雨の様子が気になって出発をためらっている。岩場なので濡れると危険なのでどうする

かと相談しているグループもあった。昨日登っておいて正解であった。

朝食は5時から、並んだ順に食べられますと昨日聞いていた、しかし4時半に並んでも誰もこない、5時少し前にどうぞと言われ食堂へ入るがガラガラに空いている、ほとんどの登山者は朝食前に山頂へ向ったらしい。

空きっ腹で岩場は少々きついはず、まして小雨が降っている、みんな安全に戻って来ることを願うのみである。食事を終えて出発の準備をしていると、雨がやんで陽が射してきた、ラッキー、カッパを着る覚悟だったが着ないですみそう。

小屋の前で記念撮影、山の警備員がシャッターを切ってくれた。「お気をつけて」の声を後に出発、今日は遠見尾根をゆっくり下ろう。

登山者の姿は今日あまり居ない、昨日からの男性二人づれが後から付いてくる、鎖場の所で先に行ってもらおうともうほとんど人に会わない。ゆっくりお花を摘みながら(意味深?)下るのは楽しい、しかしこの尾根は意外と登り下りがあり、大遠見山、中遠見山、を越えていく、小遠見山は霧で展望もきかないので巻道を行く。

地蔵の頭手前の最後のベンチでコーヒータム、ドリップで入れるコーヒの香りがあたりに漂う、やはりドリップで入れたコーヒは最高である。

のんびりとコーヒを味わい、片付け終わると小雨が降ってきた、何とタイミングが良いことだろう、今回はすべてにタイミングがよい、これも日頃の行いが良い結果と自分たちで自画自賛、年寄りグループのD班のために天があわれに思って味方してくれたのかもしれない。(ラーメン、おっと、アーメン)

ここからは普通の山道、傘を差して歩き、地蔵の頭からはすぐ下にリフト乗り場が見える。年寄りはリフトに乗るかと思いきや、リフトのお兄さん、リフトへ乗るとゴンドラの駅より下へ行ってしまう、登り返してゴンドラの駅へ行くようになるかと教えてくれた。

アルプス平までは歩いてても20分、人工的ではあるがお花畑を見物しながら歩き、ヒマラヤの青いケシの花を見ながら、シナノナデシコやイワギキョウ等を眺める。しかし人工的にこの広さの花畑を造り、維持管理するのは大変だろうと思う。観光客を呼ぶ目玉としても大変な苦勞が解る。

とおみ駅まではゴンドラで10分、下界は晴れていてかなり暑い、12時12分発の「花三昧バス」には丁度良い時間である。このバスで民宿のある八方ゴンドラまで行き昼食にすることにした。

レストランでそれぞれの物を頼み、お腹一杯になってお世話になった民宿へ寄り、車をあずけてもらったお礼と無事帰った報告をした。おかみさんは良かったですねと素直に喜ぶ顔がうれしかった。

「倉下の湯」は木で出来た大きなお風呂で、半露天風呂で内湯はない、酸性の茶褐色の湯で、湯量も豊富のようだ。源泉掛け流しはやはり気持ちが良い。空いていて私他には2名のお客しかいなかった。

帰りは「道の駅 安曇野松川」へ寄りわさび漬などを購入、一袋500円の乾燥りんごを三種類買うと1000円と言われ、思わず購入すると炒ったソラマメを一袋おまけしてくれた。

諏訪湖SAでおやきを食べ、コーヒを頂き、また、双葉SAでラーメンを食べ、相模湖ICには19時55分に着いた。今回はひざが痛い人、数日前にお尻を打ってしまった人など、半身体障害者の年寄りグループ(御免なさい)なのでのんびり歩くことができ、大変満足な山旅が出来、メンバーに感謝、感謝でした。

15周年記念リレー山行を企画し、総リーダーを務めたSさん他のスタッフに感謝すると共に大成功に終わったことにお祝い申し上げます。ありがとうございました。

